

株式会社山本工場
DX戦略

2026年1月23日 取締役会承認
株式会社山本工場
代表取締役 山本 栄悟

DX取組宣言

株式会社山本工場の創業は明治初年。文明開化の時代から、これまで150年以上にわたって金属加工の世界で技術を磨き、お客様に必要とされるものをつくり続けてきました。長い歴史の中で積み重ねてきたノウハウ、技術者の知恵、そして数多くの設備や加工技術は、私たちの大きな財産です。

しかし今、ものづくりの世界は大きく変化しています。

人手不足や技術者の高齢化、資材高騰、顧客ニーズの多様化、多品種小ロット短納期対応、そしてデジタル技術の急速な進化。こうした変化は、時に私たちに大きな壁として立ちはだかります。

それでも私は、この会社は“必ず生き残れる”と信じています。

なぜなら、私たちには「多品種小ロットへの対応力」「多材質を扱える技術」「単発プレスに特化したノウハウ」「多様な協力工場との連携」により、“変化に柔軟に対応したものづくりの歴史”があるからです。

この強みを活かしながら、私たちはこれからも **変化する顧客や社会のニーズに柔軟に対応し、技術と対応力で価値あるものを創造し続ける会社**でありたいと考えています。

さらに、最新加工機器やデジタル技術も積極的に取り入れ、少ない人員でも効率的に、そしてより高い品質で応えられる体制を整えていきます。人が足りないからこそ、知恵と技術、そしてデジタルの力を活かして未来に挑戦する。その姿勢こそが、これからの山本工場に必要だと感じています。

私たちが目指す未来は、「**最も信頼され、相談される金属加工会社**」になること」です。

困った時に真っ先に声をかけてもらえる、「あそこなら何とかしてくれる」と言っていただける、そんな身近で頼れる存在へと進化していきます。人の営みがある限り、モノづくりのニーズはなくなりません。次の100年を見据え、この会社がこれからも必要とされる企業であり続けるために、私たちは全社を挙げてこれからも明るい未来を目指してDXに取り組んでまいります。

経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

「変化するお客様や社会のニーズに柔軟に対応し、技術と誠実さで期待を超える価値あるものを提供します」

私たちの存在意義は、お客様や社会の抱える課題を誠実に受け止め柔軟に解釈し、明治初年の創業以来培ってきたノウハウや技術力でカタチあるモノを創り出し解決することで、期待を超える価値を提供することです。

【経営ビジョン】

「多様な技術とデジタルの力を融合し、人、モノ、技術力の成長を促進することで、最も信頼され、“相談される金属加工会社”として進化し、次の100年も選ばれる存在になります」

私たちはこれまでの歴史で培った多品種小ロットに対応する技術力と新しいデジタル技術やデータの力を融合することで新たな価値を創出し、最も信頼できる身近な存在として、人、モノ、技術力の成長を促進し発展する企業に進化し続けます。その結果として、次の100年後も山本工場はなくてはならない会社として選ばれたいと思います。

DX戦略

私たちは、経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために以下のDX戦略を立案し、全社を挙げて取り組んでまいります。

戦略①既存事業の業務改善、生産性向上

事務処理の改善

注文→製造指示書→図面ピックアップまでのフローの改善

受発注の事務効率の向上（受発注システムのデータ活用及び会計システムとの連携）

戦略②新規分野・新規顧客の獲得

山本工場アーカイブの作成（山本工場の歴史や柔軟な対応が出来る理由）

見積書の精度・スピード向上、ポッドキャストによる情報発信

戦略③技能伝承のしくみ化

金属塑性加工を行うための技術を次世代に伝承するために、動画、音声、画像、文字データとして見える化し、それをAIに読み込ませたうえで、わかりやすい**デジタル標準書を作成**し、山本工場の技能伝承のしくみ化を図ります。

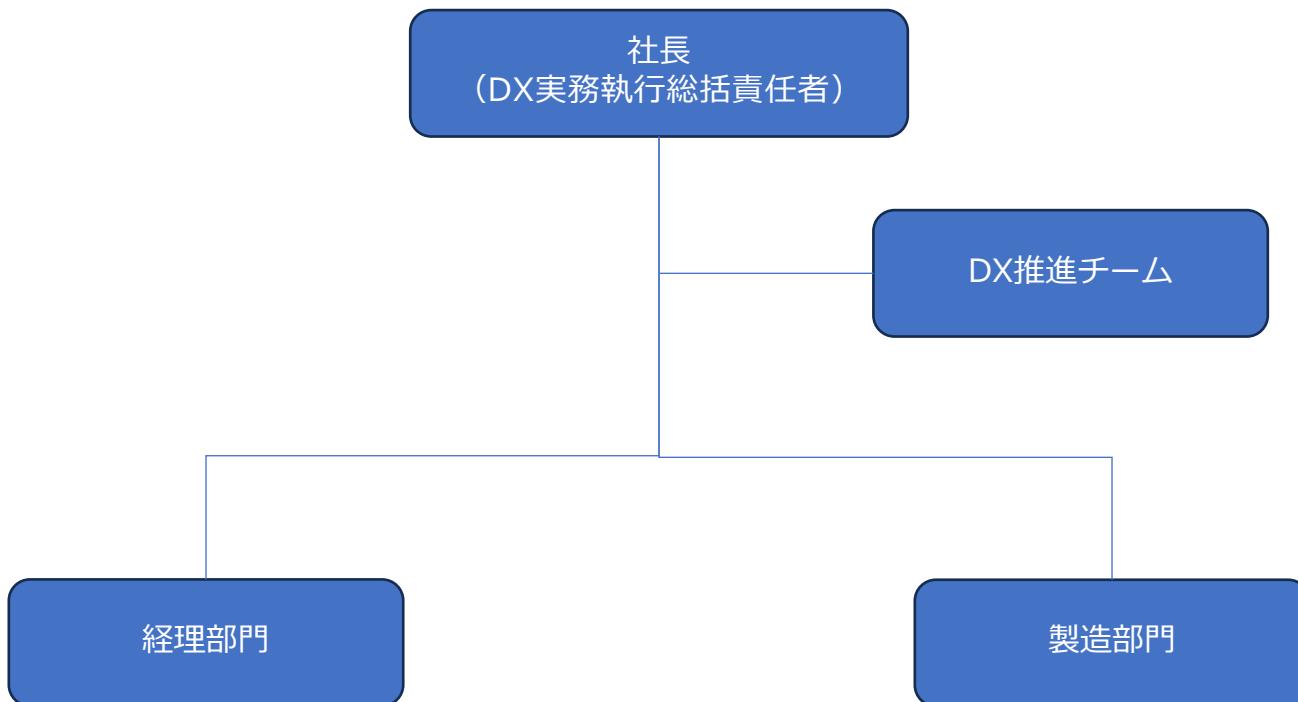
戦略④：データドリブン経営基盤の構築

100年企業が次の100年を生きるには、「勘と経験」から「データに基づく判断」へ移行する必要があるため、生産データ、見積データを駆使し、リアルタイムで経営判断ができる環境を整備します。

- ・生産データ（生産時間・加工条件・不良情報）を蓄積し、AIで最適条件を提案
- ・見積データをAIが解析し、原価予測モデルを構築（見積精度さらに向上）
- ・経営ダッシュボード（受注・稼働・利益）でリアルタイム経営判断

DX推進体制

株式会社山本工場は、社長（実務執行総括責任者）を中心として、DX推進チームを組織し、定期的にDX戦略の進捗を管理しながらDXを推進してまいります。また、年間教育計画を立案し、必要なデジタル人材育成及びデジタルリテラシー教育もDX推進チームを中心に進めます。



デジタル環境整備

株式会社山本工場は、DX推進のために売上げの**0.5%**を投資します。これまで利用している既存システムを見直しながら、活用を促進していきます。また、新規システムの導入やネットワークを構築して、会社全体のDXを推進していきます。

区分	内容
既存システム	<ul style="list-style-type: none">・大塚商会 スマイルV・弥生会計・ズメーン
新規システム	<ul style="list-style-type: none">・ジョブカン労務H Rサービス

KPI（目標値）

DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

戦略	取組内容	期限	目標値
戦略①既存事業の業務改善、生産性向上	受発注の事務効率の向上 注文→製造指示書→図面ピックアップまでのフローの改善	2027年	事務作業時間50%削減
戦略②新規分野・新規顧客の獲得	山本工場アーカイブの作成	2028年	自社製作アーカイブの作成と発信の実施
戦略③技能伝承のしくみ化	デジタル標準書の作成 (ズメイン活用)	2028年	デジタル標準書の作成と山本工場の技能伝承のしくみ化を完成
戦略④：データドリブン経営基盤の構築	生産データ、見積データの蓄積と基盤整備、データ活用	2030年	リアルタイムで経営判断ができる環境を整備

社長（実務執行総括責任者）メッセージ

山本工場の山本です。

人手不足や業務の属人化、顧客ニーズの変化など、日々の業務の中で小さな課題は感じていましたが、「忙しいから」と抜本的な変革に踏み出せずにいました。今回のDX認定申請へのチャレンジは、そうした状況を変えるために、まずは一步踏み出すきっかけとなりました。

正直、開始前は不安の方が大きく、「DXと言われても何から始めればいいのか分からない」「立派な計画書を作らなければならないのでは」と感じていました。しかし、挑戦そのものに意味があると捉え、前向きに取り組むことを決意しました。

DX戦略書の作成は、これまで曖昧だったことを問い合わせ直すプロセスでした。自社の強みや課題、DXによって誰にどんな価値を届けたいのかを整理する中で、DXはIT導入の話ではなく、人や組織の在り方を変える取り組みだと実感しました。業務フロー やシステム以前に、考え方や役割分担、情報共有の仕組みを変える必要があるということに気づいたわけです。

完成した戦略書を見て、やっと進む方向が形になったという安堵とともに、ここがスタートラインだと思えてきました。自社の言葉で未来を描けたこと、社内で共通認識を持つための“軸”ができたことは大きな成果です。今後は、戦略書を作つて終わりにせず、小さな業務改善から着実に実行し、データ活用やデジタルツールを段階的に導入します。社員一人ひとりがDXを「自分ごと」として捉えられる環境を整え、定期的に戦略を見直しながら、変化に強い企業体質へ転換していきます。DX認定への挑戦は自社の未来を描き直す大切な機会でした。

ここから山本工場の新しいスタートの扉を切り開いてまいります。

株式会社山本工場
代表取締役社長 山本 栄悟